（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ままはぐ小牧外堀事業所			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日	～	2026年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	5家庭	（回答者数）	4家庭
○従業者評価実施期間	2026年2月1日	～	2026年2月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児一人ひとりの特性や状態に応じた支援が行える体制が整っており、安心・安全に過ごせる環境づくりができている。	個別支援計画に基づき、活動内容や環境設定を柔軟に調整しながら支援を行っている。また、職員間での情報共有を密にし、統一した関わりができるよう努めている。	支援内容の振り返りやケース検討を継続し、支援の質の向上と職員間での対応の統一を図っていく。
2	職員体制が整っており、看護職員を含めた多職種で連携しながら支援が行えている。	日々の打ち合わせや記録を活用し、子どもの様子や支援内容を共有することで、チームとして一貫した支援を行っている。	研修や事例検討の機会を充実させ、職員の専門性や対応力の向上を図る。
3	安全管理体制や関係機関との連携が整っており、安定した支援が提供できている。	各種マニュアルの整備や定期的な訓練を実施し、非常時にも対応できる体制を整えている。また、関係機関と連携しながら支援を行っている。	マニュアルの見直しや訓練内容の充実を図り、より実践的な対応力の向上につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や情報共有において、職員間での理解や対応に若干のばらつきが見られる場合がある。	経験年数や職種の違いにより、支援の捉え方や対応方法に差が生じることがあるため。	定期的な打ち合わせやケース検討を通して共通理解を深め、支援方法の統一を図る。
2	記録や情報共有の方法において、効率性や活用方法に課題がある。	日々の業務の中で記録が目的化し、支援への十分な活用につながりにくい場合があるため。	記録様式や共有方法の見直しを行い、支援の質向上につながる活用を意識していく。
3	地域との関わりや外部との交流の機会が限定的である。	利用児の特性や安全面への配慮を優先する中で、外部との関わりが制限されることがあるため。	無理のない範囲で地域との関わり方を検討し、交流の機会を少しずつ増やしていく。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ままはぐ小牧外堀事業所

公表日　2026年3月17日

利用児童数　5人　　回収数　4

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4					活動内容やお子さまの状態に応じて、安全に配慮したスペースの確保に努めております。今後も安心して過ごせる環境づくりを継続してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3			1		基準に基づいた人員配置を行い、看護職員等を含めた支援体制を整えております。今後も安全で適切な支援が行える体制を維持してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4					衛生管理や清掃を徹底し、安心して過ごせる環境づくりに努めております。今後も継続して取り組んでまいります。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	3			1		実際の支援内容に基づき支援プログラムを作成しております。今後も内容の見直しを行いながら、適切な支援の提供に努めてまいります。また、支援内容についてより分かりやすくお伝えできるよう工夫してまいります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3			1		個別支援計画に基づき支援を行っております。今後も支援内容がより分かりやすく伝わるよう、情報共有の工夫に努めてまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4					お子さまの体調や状態に配慮しながら、活動内容に変化を持たせるよう工夫しております。今後も無理のない範囲で個別性を大切にした支援を継続してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2			2		安全面や体調面への配慮から交流の機会が限られる場合がありますが、可能な範囲で関わりの機会について検討してまいります。今後もお子さまに無理のない形で社会とのつながりを意識した支援に努めてまいります。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					利用開始時に説明を行っておりますが、より分かりやすくお伝えできるよう今後も工夫してまいります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4					個別支援計画については説明を行っておりますが、内容がより具体的に伝わるよう今後も丁寧な説明に努めてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		2	2			日々の相談対応は行っておりますが、保護者支援の取組が十分に伝わっていない面もあると受け止めております。今後はご家庭での関わりに活かせる情報提供や支援の機会について、分かりやすくお伝えしてまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4					職員の対応について評価いただいたことを励みに、今後もお子さまやご家族に寄り添った支援を大切にしてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		1	2	1		現状では安全面や体調面への配慮から機会が限られておりますが、保護者同士やご家族同士のつながりについても、無理のない形で今後検討してまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4					相談やご意見には丁寧に対応できるよう努めております。今後も迅速かつ適切な対応を心がけ、安心してご相談いただける体制を維持してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3	1				日々の情報共有は行っておりますが、より分かりやすく確実に伝わるよう、伝達方法や内容の工夫に努めてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	4					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4					個人情報の取扱いについては十分に配慮し、適切に管理しております。今後も安心してご利用いただけるよう徹底してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			1		各種マニュアルの整備や訓練は実施しておりますが、保護者の皆さまへの周知が十分でなかった可能性があるため、今後はより分かりやすくお伝えしてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			1		避難訓練等は定期的に実施しております。今後は訓練の実施状況や内容についても丁寧にお伝えしてまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	3			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4					事故等が発生した際には迅速な対応と報告を行っております。今後も安心していただけるよう丁寧な説明と再発防止に努めてまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	4				帰宅後「たのしかった？」と聞くと「楽しかった」と笑います。	「楽しかったと笑います」とのご意見をいただき、ありがとうございます。 お子さまが安心して通所できていることを大変嬉しく思います。今後も一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4				こどもが安心して楽しく過ごせる場所になっているので親もうれしいです。	「安心して楽しく過ごせる場所」とのご評価をいただき、ありがとうございます。 今後もお子さまが安心して楽しく過ごせる環境づくりに努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	4				いつも愛情いっぱい丁寧にご対応いただきありがとうございます。	「いつも丁寧に対応していただきありがとうございます」との温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。 今後も笑顔にお応えできるよう、丁寧で温かい支援を継続してまいります。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	※または小物外幅事業所

公表日　2026 年 3 月 17 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		定員に応じたスペースを確保し、 動線や配置を工夫して安全に過ごせる環境を 整えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5		基準に基づいた配置に加え、看護職員を含めた体制を整え、個々の状態に応じた支援を 行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		障害特性や医療的ケアに配慮し、 バリアフリーや安全面に配慮した環境整備を 行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃や衛生管理、感染対策を徹底し、 安心して過ごせる環境を維持している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	個々の状態に応じて空間を使い分け、落ち着ける環境（クールダウン等）を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		活動内容や日々の支援事務について 効率化できるように工夫している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者評価を実施し、意見を踏まえて 支援や運営の見直しに活かしている。	評価結果の活用方法に偏りがあるため、組織的に分析・共有し、具体的な改善につなげていく体制強化が必要である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日々のミーティング等で職員の意見を共有し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		外部評価の活用が十分でないため、定期的な実施や結果の具体的な反映方法について検討していく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修の機会を設け、職員の専門性向上に努めている。	研修内容の共有や実践への落とし込みに課題があるため、学んだ内容を支援に活かす仕組みづくりを進めていく必要がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援内容に基づいたプログラムを作成し、 内容の整理・更新を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		個々の状態やニーズを把握し、 客観的な視点を踏まえて支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		関係職員で情報共有を行い、 共通理解のもと支援計画の検討を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により種類しているか。	5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容の記載スえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに基づき、必要な支援項目を し具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で情報共有を行い、チームで活動プログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子どもの状態や状況に応じて活動内容を 調整し、固定化しないよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		利用者個々の発達状況に合わせて 対応を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		発達状況に応じて個別活動と集団活動を 組み合わせた支援を行っている。	活動の組み立てに差があるため、支援方法の整理と統一を進めていく必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援前に打ち合わせを行い、 内容や役割分担を確認し連携して支援している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々の支援内容を記録し、 支援の検証や改善につなげている。	振り返りの深さに差があるため、記録や共有方法の統一が必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、 必要に応じて支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		ガイドラインに基づき、複数の支援内容を組み合わせた支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を行う力を育てるための支援を行っているか。	5		子どもの状態に応じて選択の機会を設け、 自己決定を促す支援を行っている。	支援方法にばらつきがあるため、関わり方の統一と支援の質の向上が必要である。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況を理解した職員が会議に参加し、 情報共有を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		医療・福祉・教育機関と連携し、 子どもの状況に応じた支援体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校との情報共有や連絡調整を行い、 円滑な支援につなげている。	情報共有のタイミングや内容に差があるため、連携方法の統一と強化が必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	移行支援の体制や実施方法にばらつきがあるため、情報提供の内容や頻の整理が必要である。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	1		連携機会や活用に差があるため、継続的な連携体制の強化が必要である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	子どもの状態に配慮しながら、可能な範囲で交流の機会を検討している。	安全面等の配慮により機会が限られているため、無理のない範囲で実施方法の工夫が必要である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	関係機関との協議会等に参加し、情報共有や連携強化を図っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々の連絡ややり取りを通して、子どもの状況や課題の共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	日常的な相談対応や情報提供を行い、家庭での関わりの支援につなげている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学・契約時に丁寧に説明を行いご質問等あれば早急に対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		子どもや保護者の意向を確認しながら、支援内容に反映している。	説明内容や理解度に差が出ないよう、説明方法や資料の統一を図る必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画への同意を得ているか 。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		日常的に相談対応を行い、必要に応じて面談や助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4		交流や家族支援の機会が十分に確保できていないため、実施方法や機会の整備が必要である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情や意見に対して迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		通信や連絡手段を活用し、活動内容や予定等の情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の管理を徹底し、適切な取扱いを行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもや保護者の状況に配慮し、丁寧な情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1		地域との関わりの機会が十分でないため、無理のない範囲で関係づくりや機会の検討が必要である。
非常時等の対応	46	虐待防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを整備し、訓練を実施して安全対策を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを策定し、災害に備えた訓練や体制整備を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		事前に健康状態を把握し、服薬や発作等に対応できる体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を策定し、研修や訓練を実施して安全管理体制を整えている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5		安全に関する取組について、家庭と連携しながら支援を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を実施し、虐待防止に関する意識向上に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		必要性を十分検討し、事前説明と同意のもと適切に対応している。	